

アレルギー児等の食生活指導の在り方に関する研究

(子どもの健康と栄養に関する研究)

総括

分担研究者 戸谷誠之

研究要旨：本年度の研究課題は、1.低出生体重児の食生活指導マニュアルの作成に関わる研究、2.アレルギー児の食生活指導マニュアルの作成に関わる研究、3. 身体活動の特に低い子どもの栄養素等の必要量の設定に関わる研究である。これらについて、9名の協力研究者とその共同研究者のご協力により低出生体重児の発育に適合した栄養給与目標と栄養と食生活についての一般用ガイドラインのとりまとめを計画した。また、本研究課題を遂行するための作業として基礎調査を行い修正月齢に見合った離乳の進め方について、アレルギー児の食事指導のポイントについて、摂食障害を持つ児の初期児指導のあり方等に提案した。

見出し語：低出生体重児、摂食障害、栄養指導、食生活指導、食事アレルギー

研究方法と結果：

1) 低出生体重児の食生活指導についての調査研究について以下の研究を行った。

a. 乳児の栄養指導方針の現状についての調査を行った。

①極低出生体重児について、全国88のNICUの医師を対象に、1)退院後の児の栄養指導方針および2)1996年に出生した児の外来経過観察中における離乳について調べた。結果は、退院後の栄養指導方針への病院栄養士の参加は少なく87%の施設で担当医師が立案していた。退院後の乳汁栄養に関しては、殆どの施設で母乳栄養を認めており、低出生体重児用の粉乳を薦めている施設は少なかった。75%が離乳の開始を修正月齢5カ月、完了期を修正12カ月としていた。

②1800~2500gの低出生体重児について、日本未熟児新生児学会の役員(88名)等を対象に調査した。その結果、入院中の乳汁の選択や退院後の哺乳量については、正常児と区別しない者が多数であった。この体重域の児では、65%が離乳の開始を修正5カ月が望ましいと回答していた。半数が成熟児に比べ、開始時期は遅らせるが慣れたら同様に扱うと回答していた。乳児とその母親を対象とした調査では、出生直後では出産予定日を開始点とする母

親が多かったが、生後2,3カ月の児の母親では修正月齢を認識する者が多く、医療関係者からの指導の有用性が示された。しかし、出生後の発育状況は修正月齢を考慮することの是非に関係なく個体間差が大きく、低体重出生児には画一的なマニュアルの必要性は低く、選択幅があり、具体例を提示できる内容の必要性を感じた。

b. 低出生体重児の栄養と発育については複数施設の出生時体重1500~2500gの児196名を対象に、生後4カ月から18カ月まで、身体発育と栄養・食生活に関する縦断的な調査を行った結果、平均出生時体重は2000g前後、在胎期間は33~35週が最も多かった。離乳の開始は修正月齢で5カ月が多く、生後12カ月で離乳が完了しているものが多かった。この結果から離乳の進め方の目安を提示した。

2) アレルギー児の食生活指導について

A)食物アレルギーの予防・措置について、a.調理による低アレルゲン化、b.多価不飽和脂肪酸の抗炎症免疫抑制効果と食事メニューへの応用、B)除去食における栄養指導指針の策定、について検討し、食品の低アレルゲン化加工とその効果、除去

食における食品の選択と栄養バランス、授乳婦の食生活と母乳中多価不飽和脂肪酸 n-6/n-3 比の関連についての調査研究を行い、知識基盤としてまとめた。また、母親の食事が母乳の n-6/n-3 比に及ぼす影響について調べ n-6/n-3 比と抗炎症反応の関係を明らかにする重要性を示唆した。

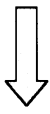
3) 身体活動の特に低い子どもの栄養素等の必要量の設定についてはA.身体障害を持つ児の食生活の現状把握、B.障害児を持つ母親の食生活への認識と不安および育児情報源の現状把握、C.障害児の食物摂取量と状況の把握、D.栄養指導マニュアルの策定と必要度、などに関する調査を研究期間中に実施しデータを取りまとめを行った。その結果、現状の障害者施設における実態を調べ、年齢として相対する日本人の栄養所要量との比較を行った。その結果は a)エネルギー及び他の栄養充足のバランスが良い、b)エネルギーは充足しているが個々の栄養充足のバランスが不良 c)エネルギーを含む全ての栄養充

足率が不良の3群に分けると各群がほぼ30%づつの栄養別充足状況であった。

今後の研究方針

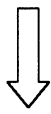
次年度以降の研究課題として以下の各項を検討予定である。

1. 修正月齢を考慮した低出生体重児の栄養・食生活指導の妥当性の検討
2. 低出生体重児用離乳の目安(案)の臨床的評価検討症例別栄養指導の効果判定と経済性の検討
3. 食事アレルギー児と授乳中の母親の食生活のあり方への検討食事アレルギー発症予防への介入研究
4. 身体活動が低い児の未調査栄養素を含む栄養充足状況調査の実施
5. 母親が実践できる具体的な食生活指導マニュアルの策定
母親や家族が実施可能な栄養評価基準の策定



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究要旨:本年度の研究課題は、1.低出生体重児の食生活指導マニュアルの作成に関わる研究、2.アレルギー児の食生活指導マニュアルの作成に関わる研究、3.身体活動の特に低い子どもの栄養素等の必要量の設定に関わる研究である。これらについて、9名の協力研究者とその共同研究者のご協力により低出生体重児の発育に適合した栄養給与目標と栄養と食生活についての一般用ガイドラインのとりまとめを計画した。また、本研究課題を遂行するための作業として基礎調査を行い修正月齢に見合った離乳の進め方について、アレルギー児の食事指導のポイントについて、摂食障害を持つ児の初期児指導のあり方等に提案した。